

世界水準の観光リゾート地へ前進

大型観光プロモーション“旬香周島おきなわキャンペーン”を継続



那覇空港新国際線旅客ターミナルビルが供用を開始



4月には大型旅客船ターミナルビル供用開始予定

沖縄県が発表した2013年(暦年1月～12月)の入域観光客数が過去最高の641万3700人を達成した。対前年比で57万7900人増加。率にして9.9%増となり、これまでの過去最高だった08年の604万5500人を大きく上回る数となっている。8月も70万人という単月での過去最高を記録した。国内客、外国人客ともに過去最高となっている。今回の沖縄観光総力特集では、好調の沖縄観光の概況のほか、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)が展開している14年度の「旬香周島」(しゅんかしゅうじま)おきなわキャンペーンについて紹介する。

沖縄観光の概況
沖縄県の13年の国内客は、586万2900人で、前年比40万3800人増で、これまでの過去最高だった08年579万3900人をこちらも大きく上回った。田安で海外旅行から沖縄旅行へシフトしたことや、アベノミクスによる景気の浮揚で国内旅行市場に回復傾向が表れたことが背景にある。さらにLCCの成田・関西からの新路線は、航空機の座席数を単純に増やしただけでなく、安値志向の旅行者への沖縄旅行への動機付けを後押しした。これに関連しては伊丹空港と関西国際空港の経営一体化が奏功し、伊丹からの沖縄便の拡充もあった。

離島では、宮古島はNHK朝の連続テレビ小説「純と愛」放映効果、八重山諸島では、新石垣空港開港で石垣島発着の航空路線も拡充された。

増加した航空座席数も田安、景気浮揚で高まった沖縄旅行需要に取り込まれて、入域観光客数の大幅な増加につながった。

方面別では、東京からは7%増、関西は

13.7%増、福岡2.8%増、名古屋1.4%増、その他の地域は3.5%と東名阪の三大都市圏は大きく増加したことがわかる。

外国人観光客は、55万8000人で、前年比17万4100人の増加率にして46.2%増となった。沖縄の外国人客の過去最高は、昨年の37万6700人であり、昨年の記録を更新した。増加率も大幅プラスとなった。このように前半は中国からの回復を期待して強気の目標を設定することが検討されている。

また単年度で目標設定する沖縄県の誘客行動計画である「ビジョンおきなわ計画」の入域観光客数の目標数値である680万人、そのうち外国人観光客が0万人という数値を初めてクリアする可能性も高まっており、関係者の喜びも大きい。

受け入れ強化
好調の沖縄観光が、国内客、外国人客ともに宿泊キャパ不足の声をあかす。14年度中には2施設が開業予定

定7月にはオリオンビルが出資する大型リゾートホテル「オリオン・モト&スパ」(238室、9月オープン)と沖縄北谷(346室)と泊泊(346室)に泊泊ヤバは拡大され、14年度入域観光客数増加をけん引することが期待されている。

2月には、那覇空港新国際線旅客ターミナルビルが供用を開始した。ほか、4月に

定する沖縄県の誘客行動計画である「ビジョンおきなわ計画」の入域観光客数の目標数値である680万人、そのうち外国人観光客が0万人という数値を初めてクリアする可能性も高まっており、関係者の喜びも大きい。

受け入れ強化
好調の沖縄観光が、国内客、外国人客ともに宿泊キャパ不足の声をあかす。14年度中には2施設が開業予定

定7月にはオリオンビルが出資する大型リゾートホテル「オリオン・モト&スパ」(238室、9月オープン)と沖縄北谷(346室)と泊泊(346室)に泊泊ヤバは拡大され、14年度入域観光客数増加をけん引することが期待されている。

2月には、那覇空港新国際線旅客ターミナルビルが供用を開始した。ほか、4月に

定する沖縄県の誘客行動計画である「ビジョンおきなわ計画」の入域観光客数の目標数値である680万人、そのうち外国人観光客が0万人という数値を初めてクリアする可能性も高まっており、関係者の喜びも大きい。

受け入れ強化
好調の沖縄観光が、国内客、外国人客ともに宿泊キャパ不足の声をあかす。14年度中には2施設が開業予定

定7月にはオリオンビルが出資する大型リゾートホテル「オリオン・モト&スパ」(238室、9月オープン)と沖縄北谷(346室)と泊泊(346室)に泊泊ヤバは拡大され、14年度入域観光客数増加をけん引することが期待されている。

2月には、那覇空港新国際線旅客ターミナルビルが供用を開始した。ほか、4月に

定する沖縄県の誘客行動計画である「ビジョンおきなわ計画」の入域観光客数の目標数値である680万人、そのうち外国人観光客が0万人という数値を初めてクリアする可能性も高まっており、関係者の喜びも大きい。

受け入れ強化
好調の沖縄観光が、国内客、外国人客ともに宿泊キャパ不足の声をあかす。14年度中には2施設が開業予定

2013年は過去最高の観光客数達成

さらなる効果的な受け入れ整備必要

県では2020年大型MICE施設の供用開始を計画している。大きく拡大する沖縄旅行需要に対して、必要な受け入れ整備が着々と進んでおり、年間入域観光客数1000万人を達成できる世界水準の観光リゾート地を形成しようとしている。

大型プロモーション
県とOCV Bでは、前年度に引き継ぎ、2月から6月にかけては春のキャンペーンを展開。2月下旬から3月にかけては卒業旅行と卒業旅行のイメージを打ち出す。4月1日の消費税アップが決まっているなか、沖縄旅行の4月～6月の予約状況は、好調だ。春シーズンは、行楽シーズンでありながら、新学進級、異動や年度代わりという事で全国的に秋の行楽シーズンに比べて、旅行需要は低い。沖縄は、3月にプロ野球などスポーツイベント誘致とそれ目当てのファン誘致に成功したため、インバウンドとして、3月後半から新年度4月中旬頃までがわずかにインバウンドとなっている。この時期にシンガポールを迎える大規模な卒業旅行先には、安価な料金となる沖縄旅行を提案している。さらに今年、最も力を入れているのが経済的、文化的にあるシンガポール世代(子ども)と、一緒に旅行をする「三世代

春のおきなわ親子孫旅

撮ろうぜ!サイコーの卒業写真

今年の「春のしゅんおきは、重要な位置づけとなっている。4月1日の消費税アップが決まっているなか、沖縄旅行の4月～6月の予約状況は、好調だ。春シーズンは、行楽シーズンでありながら、新学進級、異動や年度代わりという事で全国的に秋の行楽シーズンに比べて、旅行需要は低い。沖縄は、3月にプロ野球などスポーツイベント誘致とそれ目当てのファン誘致に成功したため、インバウンドとして、3月後半から新年度4月中旬頃までがわずかにインバウンドとなっている。この時期にシンガポールを迎える大規模な卒業旅行先には、安価な料金となる沖縄旅行を提案している。さらに今年、最も力を入れているのが経済的、文化的にあるシンガポール世代(子ども)と、一緒に旅行をする「三世代



卒業旅行イメージ

春のしゅんおきは、重要な位置づけとなっている。4月1日の消費税アップが決まっているなか、沖縄旅行の4月～6月の予約状況は、好調だ。春シーズンは、行楽シーズンでありながら、新学進級、異動や年度代わりという事で全国的に秋の行楽シーズンに比べて、旅行需要は低い。沖縄は、3月にプロ野球などスポーツイベント誘致とそれ目当てのファン誘致に成功したため、インバウンドとして、3月後半から新年度4月中旬頃までがわずかにインバウンドとなっている。この時期にシンガポールを迎える大規模な卒業旅行先には、安価な料金となる沖縄旅行を提案している。さらに今年、最も力を入れているのが経済的、文化的にあるシンガポール世代(子ども)と、一緒に旅行をする「三世代



三世代旅行イメージ

冬のしゅんおきは

～アクティブシニアとシニアグループ～

冬のしゅんおきは、大人のふたり旅と大人のみんな旅。大人のふたり旅は、50代を中心としたアクティブシニア。大人のみんな旅は、60代を中心としたアクティブシニア。大人のふたり旅は、50代を中心としたアクティブシニア。大人のみんな旅は、60代を中心としたアクティブシニア。

大人のふたり旅と大人のみんな旅

大人のふたり旅は、50代を中心としたアクティブシニア。大人のみんな旅は、60代を中心としたアクティブシニア。

秋のしゅんおきは

～女性グループと母娘旅～

秋のしゅんおきは、女性グループ、母娘旅、自然・癒し、カルチャー。女性グループは、母娘旅、自然・癒し、カルチャー。母娘旅は、自然・癒し、カルチャー。自然・癒しは、カルチャー。カルチャーは、自然・癒し。

恋の島、沖縄

恋の島、沖縄。自然・癒し、カルチャー。自然・癒しは、カルチャー。カルチャーは、自然・癒し。

夏のしゅんおきは

～ファミリー層と学生層～

夏のしゅんおきは、ファミリー層、学生層。ファミリー層は、学生層。学生層は、ファミリー層。ファミリー層は、学生層。学生層は、ファミリー層。

夏のしゅんおきは

夏のしゅんおきは、ファミリー層、学生層。ファミリー層は、学生層。学生層は、ファミリー層。ファミリー層は、学生層。学生層は、ファミリー層。